

# 地域で暮らす人々の孤立予防戦略

～Well-being 支援のためのヘルスケアシステムの構築～

看護学部 デジタルヘルスケア・センター

かわさき ゆうこ  
○教授 川崎 優子

キーワード

社会的孤立, デジタルヘルスケア, Well-being



## 研究概要

近年、地域社会の中で“孤立”している人々は増加傾向にあります。“社会的孤立”の要因としては、不登校、職場不応、介護負担、産後うつ、育児負担、医療的ケア児の療育者、がんなどがあります。さらに、“社会的孤立”は死亡率を50%増加させるという報告があります。このような状況を踏まえて、看護学部・看護学研究科は、将来計画「地域の健康を担うヘルスケア拠点の創出」を目指し、2023年7月デジタルヘルスケア・センターを設置しました。開設にあたり、10か年計画の事業を計画しました。



本事業1年目(2023年度)の進捗状況は、基盤整備と地域住民のニーズ調査に取り組み、予防戦略の方向性を見出しました。さらに、播磨町との協定締結(12月)、キックオフセミナー(3月)、明石市との全学協定(4月)などを実施し、兵庫県立大学の他研究科との連携基盤を築きました。現在は、以下のプロジェクトを推進しています。

### P1:がん検診受診率向上

がん検診データに基づく受診者の特徴分析、  
受診勧奨対策の検討  
上村浩一、清原花(看) 森本雅和、新居学(工)

### P2:自殺予防推進

ゲートキーパー手帳のアプリ化および自殺対策セミナーの開催  
川田美和、西池絵衣子、石井美由紀(看)

### P3:神経発達症児の養育支援

乳幼児健診データ分析、情報発信方法の検討  
能町しのぶ、工藤美子(看)、笹嶋宗彦(情)

### P4:障害児の保護者支援

交流会の場を通じた情報提供  
大村佳代子、古川恵美(看)

今後は、上記のプロジェクトを推進するとともに、新たなプロジェクトを順次立ち上げ、「地域の健康を担うヘルスケア拠点の創出」を目指す予定です。

## アピールポイント

人生100年時代を迎え、社会が多様化する中で、地域住民の健康課題も多様化しています。健康課題への対策(予防含む)は、デジタルヘルスに関わる様々なツール(ウェアラブルデバイス、PHR、AIなど)に“看護の知”を投入することで、人々の行動変容を引き出す可能性が高まります。本事業は、孤立予防対策だけでなく、個人のヘルスケア促進、予防医療、医療のデジタル化などに応用できる可能性があるといえます。